

速 報

大学図書館と公共図書館の連携による地域貢献

—広島都市学園大学附属西風図書館の取り組みについて—

片 山 智恵美¹ 谷 川 良 博² 川 畑 な み² 富 樫 誠 二²

抄 録

少子化に伴う18歳人口の減少が続く中、大学進学者が減少に転じると予測される「大学の2018年問題」が注目されている。各大学が選ばれる大学になるため、対策が進められているところである。大学図書館でも、学内だけではなく地域社会の中で、どれだけ存在意義を示すことができるのかが課題となっている。本報告では、大学図書館の地域住民への開放だけでなく、公共図書館と連携をすることで、図書館の存在を地域住民に周知する切っ掛けとなることについて、当館の取り組みを報告する。

1. はじめに

社会における生涯学習へのニーズが高まりとともに、1993年の学術審議会の報告書¹⁾では、大学図書館の地域社会・市民への公開について「学術情報を地域社会や市民へ積極的に公開し、生涯学習活動を支援することが期待されている。」と報告された。こうした社会の動きから、各大学図書館では、地域住民への開放が進められてきた。

また、少子化に伴う18歳人口の減少が続く中、大学進学者が減少に転じると予測される「大学の2018年問題」が注目されている。各大学が選ばれる大学になるため、対策が進められている。大学図書館でも、学内だけではなく地域社会の中で、どれだけ存在意義を示すことができるのかが、今後の生

き残りにかかってくると思われる。

さて当館は、2013年4月に健康科学部リハビリテーション学科の開設と同時に開館した。リハビリテーション学科には理学療法学専攻と作業療法学専攻があり、学生数は約400名ほどである。2018年4月には、言語聴覚専攻科と大学院保健学研究科が開設されたことにより、蔵書内容はリハビリテーションに関する資料が主となっている。立地条件として、広島市中心部からバスで15分ほどの自然豊かなキャンパスではあるが、周辺に民家がほとんどない。

さらに当館は、私立大学の附属図書館であり、学生及び教員の教育・研究機能に支障を来す可能性があるため、地域住民に対しては閲覧利用のみとなっている。利用方法に規制がある中、どのような地域貢献や取り組みができるのかを考えていく必要がある。

また、地域へ開放しているとはいえ、当館を利用する学外利用者は、卒業生もしくは他大学の学生が若干名であり「地域住民」は皆無である。このこと

受稿：2018年2月20日 受理：2018年4月24日

¹ 広島都市学園大学附属西風図書館

〒731-3166 広島市安佐南区大塚東3丁目2-1

² 広島都市学園大学健康科学部リハビリテーション学科

〒731-3166 広島市安佐南区大塚東3丁目2-1

は、先に述べた通り、周辺に民家がほとんどないことに加えて、当館の存在が地域住民に知られていないということが原因の1つとしてあげられる。そのため、まずは当館の存在を知って貰える切っ掛けを作る必要があった。

こうした状況の中、広島市立中央図書館が中心となって企画をされた「Hiroshima Active Library 協働事業」に参加出来た事は、今後の当館における地域貢献や公共図書館との連携について、方向性を見出す切っ掛けとなった。

「Hiroshima Active Library 協働事業」とは、広島市立中央図書館が中心となり、広島市内の公共図書館、大学図書館等の複数図書館が、同一テーマの事業を同日（同週）に協働して実施することで、図書館がリードして、当該事業への市民（県民）の関心を深めるための事業である。

本速報では、「Hiroshima Active Library 協働事業」における当館の取り組み内容について報告するとともに、今後どのような方法で地域住民へ当館を周知していくのか方法と課題検討した。

なお、先に述べたとおり、周辺に民家がほとんどないことから、当館が対象とする「地域住民」を徒歩で来館できる範囲に狭めるのではなく、広く公共交通機関で来館できる範囲とする。

2. 「Hiroshima Active Library 協働事業」参加への事前準備

2.1 目的とテーマ決め

「Hiroshima Active Library 協働事業」に、どのような目的とテーマで当館が参加をするのかが課題となった。

参加目的は、公共図書館と連携をすることで、当館の存在を地域住民に知って貰える切っ掛けとする事である。

次に、どのようなテーマが一般の方に目を向けて貰えるのかという点である。このテーマ決めについては、本学教員のアドバイスにより、社会的な課題となる認知症をテーマに取り上げることとなった。

テーマを認知症とし、館内での資料展示とともに、授業で行った学生による高齢者体験のポスター報告も展示することとした。また、公共施設で講演会を

開催し、広く一般の方に認知症とそのリハビリテーションについて理解を深めて貰うことも目的とした。

2.2 展示に向けての調査・情報収集

認知症をテーマにした資料展示や講演会等について、これまで他大学がどのような内容で企画してきたのかを調査するとともに、「認知症にやさしい図書館ガイドライン」や「本の処方箋プロジェクト」についても情報収集することにした。

「認知症にやさしい図書館ガイドライン」とは、「認知症にやさしい図書館」を目指そうとする図書館のための指針として、超高齢社会と図書館研究会が2017年10月に作成されたものである。また、「本の処方箋プロジェクト」は、上記の研究会が認知症の専門家と図書館員が作成した認知症に関する本のリストに基づいて、認知症の人や家族などに本を処方するプロジェクトである。認知症についての正しく分かり易い情報を提供するためのプロジェクトでもある。

これらの情報を収集し、当館の展示や講演会の参考にするため、本学教員とともに、2017年10月13日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、第103回全国図書館大会の分科会「認知症と図書館を考える～超高齢化社会をともに生きるために～」に参加をした。内容は、主に公共図書館を対象にしていたと感じたが、認知症の方やその家族への対応等公共図書館が抱えている問題を知ることができた。これは、大学図書館が公共図書館や地域の方へどのような情報提供ができるのかを考える機会となった。

2.3 展示資料の調査及び収集

次に、展示資料の調査である。

当館は開館して5年の図書館であるため、蔵書数が約12,000冊程度であり、主に学部の授業や研究に必要な分野に特化して収集してきた。認知症については、リハビリテーション学科として必要な資料に限って収集してきたため、認知症に関係する周辺資料は揃っていなかった。例えば、認知症患者やその家族の体験記や、一般的な認知症サポートに関す

る資料は積極的には収集してこなかった。

そこで、この企画のサポーターであった教員とともに、直接書店に出向き内容を確認しながら追加で購入する資料の選定を行った。

3. 展示内容及び展示準備について

3.1 展示内容

展示タイトルは「認知症のケアと予防」とし、Table 1 の項目及び内容で、2017 年 12 月 1 日から 2018 年 1 月 31 日までの期間とした。認知症関連資料の展示と同じ期間に、学生による高齢者体験のポスター展示も館内で実施した。

3.2 展示準備

実際の展示準備は、健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 3 年生の、「認知症にやさしい図書館」を卒業研究のテーマにしている学生が行った。

事前にこちらが準備しておいた認知症関連資料の中から、実際に展示をする資料の最終選定を行い、面出しをする資料をどれにするか等の資料の並べ方も学生に考えて貰った。(Fig. 1)

その他、イラストが得意な学生に表題の作成を依頼した。(Fig. 2)

また、授業で行った学生による高齢者体験のポスター展示については、担当教員から学生に展示することに対して了承を得た。

4. 講演会

「認知症のケアと予防」の展示とともに、2017 年 12 月 5 日に広島市映像文化ライブラリーで、本学教員による「映画で学ぶ認知症」のテーマで講演会を開催した。

4.1 開催場所について

当初は大学内で実施する事も検討したが、一般の

Table 1 「認知症のケアと予防」展示項目及び内容

展示項目	内 容	冊数
認知症が気になる方へ	認知症について書かれた、専門書というよりは一般の方や学部 1・2 年生が読んでも分かり安い内容の図書	16
認知症のケア	認知症の方の生活と心のケアに関する内容の図書	13
認知症の予防	認知症の予防につながる運動、治療方法に関する内容の図書	14
認知症とリハビリテーション	認知症患者へのリハビリテーション介入等の専門書が中心	15
回想法と関連図書	認知症への療法の 1 つである回想法を解説した資料と、回想法に使える図書	18
当事者からのメッセージ (若年性認知症を中心に)	認知症の中でも若年性認知症を中心に、当事者の体験記や、若年性認知症のサポートに関連する図書	12
家族支援	医療・福祉サービスのガイドや、認知症家族のエッセイなど	21



Fig. 1 学生による展示準備の様子



Fig. 2 学生による展示の表題

方への知名度や集客を考慮し、公共施設で実施した。「Hiroshima Active Library 協働事業」の期間内に開催し、広島市立中央図書館、広島市映像文化ライブラリーとの共催とし、広島市映像文化ライブラリーのホールで開催することが出来た。

4.2 広報

本学のホームページで広報すると同時に、広島市内の公民会や地域包括支援センター、認知症カフェにチラシを配布した。その他、教員や職員が関わっている認知症や高齢者に関する団体にも直接配布をして貰った。(Fig. 3)

2017 Hiroshima Active Library 協働事業

講演会
映画で学ぶ認知症

2017/12/5 (火)

時間 開場 10:00 開演 10:30~11:30

場所 広島市映像文化ライブラリー ホール
〒730-0011 広島市中区基町 3-1 (広島市立中央図書館 隣)

講師 近藤 敏 氏
(広島都市学園大学健康科学部教授/作業療法士)

内容
「認知症」になったら、生活にどんな障害が出てくるのか不安に思いませんか? 「認知症」がテーマの映画や、「認知症」の方が登場する映画を紹介しながら、「認知症」についての誤解を解いていきましょう。

会場地図

主催：広島都市学園大学附属図書館・広島市映像文化ライブラリー・広島市立中央図書館
問い合わせ先：広島都市学園大学附属西風区図書館 Tel. 082-849-6883

Fig. 3 講演会のチラシ

4.3 講演会を開催して

平日であったが、96名の参加があった。

講演会の内容は、認知症の方が登場する映画を紐解きながら、認知症になったら生活にどんな障害が出てくるのかという不安や、認知症の方に対しての「何も分からなくなる」「徘徊など迷惑をかける」等の偏見について、誤解を解いていった。専門的な内容を解説するのではなく、映画を切り口とすること

で、認知症の方の様子が想像しやすい内容となった。

また、講演会の入り口で当日の資料と一緒に、当館での展示についてのチラシも配布し展示のアピールもした。(Fig. 4)

2017 Hiroshima Active Library 協働事業

平成 29 年度 広島都市学園大学附属西風区図書館 資料展示

認知症のケアと予防

<展示内容>
認知症のケアと予防をテーマに、リハビリテーション等の医療分野からの本と、介護する家族や当事者からのメッセージの本を展示
作業療法士等が学生による高齢者疑似体験のポスター展示も同時開催

<展示期間>
平成 29 年 12 月 1 日 (金) ~ 平成 30 年 1 月 31 日 (水)

<開館時間>
9:00~19:00
※12月14日は18:00、12月25~27日と1月5日は17:30で閉館

<休館日>
土・日・祝日及び平成 29 年 12 月 28 日 (木) ~ 平成 30 年 1 月 4 日 (木)

<一般利用について>
閲覧はできますが、貸出はできません。

<お問い合わせ>
広島都市学園大学附属西風区図書館 Tel. 082-849-6883

<西風新都キャンパス アクセスマップ>
「広島バスセンター」から最短で約 15 分

Fig. 4 資料展示のチラシ

5. 結果と考察

先に述べた通り、「映画で学ぶ認知症」のテーマで講演会には、平日であったが96名の参加があった。このことは、認知症に関して関心の高さを感じる結果とも言える。

広報の方法については、講演会後のアンケート結果 (Table 2) によると、公共図書館や公民館でチラシを見た方が全体の約 54% であり、チラシの配布場所については妥当であったことが分かる。

また、映画を切り口とすることで、映像を見ながら具体的に認知症の症状を解説したことは、これから認知症について知りたい人にとって、入り口として良い内容であったことは、講演会後のアンケート結果からも伺える。(Table 3)

Table 2 講演会のアンケート結果より 回答率：約88%（96名来場中85名）

	今回の講演会をどのように知りましたか？	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
1	公共図書館でチラシを見て	0	0	0	2	8	21	31
2	公民館でチラシを見て	0	1	2	0	3	15	21
3	本学のホームページ	0	0	0	0	0	0	0
4	知人から誘われて	0	2	0	0	11	3	16
5	その他	1	2	0	3	3	8	17
	計	1	5	2	5	25	47	85

Table 3 講演会のアンケート結果より 回答率：約80%（96名来場中77名）

	講演会の内容はいかがでしたか？	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
1	大変良い	0	2	0	1	14	20	37
2	良い	1	2	1	4	9	15	32
3	普通	0	0	1	0	0	7	8
4	悪い	0	0	0	0	0	0	0
5	とても悪い	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	4	2	5	23	42	77

6. 今後の課題

講演会後に実施したアンケート調査では、少数ではあったが当館にも来てみたいという意見があった。しかし、展示期間中の一般利用は、残念ながら全くなかった。また、講演会を知った場所についての結果を見ても、本学のホームページを見て来た方は全くなかった。こうした結果から、当館が地域住民に知られていないということが良く分かる。地域に開かれた大学図書館となるために、まずは、すでに一般の方が利用する公共図書館やその他の関連施設との連携を進めることが近道であると感じた。

また、どのような形で公共図書館等と連携をするのか、そしてその連携を持続させていくためにはどうしたら良いかが今後の課題となってくる。

引用

- 1) 学術審議会学術情報資料分科学術情報部会. 大学図書館機能の強化・高度化の推進について（報告）：6-（3）大学図書館の地域社会・市民への公開，1993.

**Contribution to the community through cooperation
between university libraries and public libraries:
On the Practice of Hiroshima Cosmopolitan University Seifu library**

Chiemi KATAYAMA, Yoshihiro, TANIKAWA, Nami KAWABATA, Seiji TOGASHI

¹ Department of Rehabilitation, Faculty of Health Sciences, Hiroshima Cosmopolitan University
3-2-1 Otsukahigashi, Asaminami-ku, Hiroshima 731-3166, Japan